

世代を超えた仲間との交流の場
～みんなで作る PAL PARK（パルパーク）整備事業～

松江市宍道公民館

1 宍道地区と宍道公民館の概要

松江市西端に位置する宍道町は北に宍道湖、西は出雲市、南は雲南市に隣接し、空港も近く陰陽を結ぶ交通の要衝である。近世以降、宿場町として賑わっていたが、近年は周辺の大型観光地の間であって訪れる人は少ない。世帯数約 3,200 世帯、人口約 8,800 人と年々減少傾向である。しかし、平成 29 年 6 月より豪華寝台列車「トワイライトエクスプレス瑞風」の宍道駅停車を機にまちの活性化気運が芽生えてきた。また、松江市が進める公共施設適正化において、平成 28 年度 4 月より宍道公民館と宍道支所の複合施設として、宍道駅前に「くらしステーションしんじアエルネ」として移転新設され、住民の拠点となるよう共創・協働のまちづくりが再始動した。

2 事業の趣旨

(1) 事業対象

宍道公民館では 7 年前から中学生で組織する「宍道ジュニアリーダーズクラブ」の活動を実施し、その結果、リーダー格の若者が増えつつある中、今後は中学生や高校生は基より、彼らをリードできる若い社会人を求めるためのアプローチが必要と考えた。その手段として、次世代を担う若者を対象とした居場所と仲間づくりの推進を進める。

(2) 事業背景

地域住民の拠点となりつつある「くらしステーションしんじアエルネ」の建物は宍道駅前という好立地にあるが、外構部となる前庭、後ろ庭及び裏山が

有効利用出来ていない。その、外構部では、イベント的に「水燈路 in 宍道」「夏夜祭」「盆踊り」などを実施して来ている。また、夏には野外バーベキューをするグループも現れ、利用アイデアが膨れ上がって来たが、まだまだ普段使いできるスペースとなると良い。



(前庭での「水燈路 in 宍道」の様子)

3 具体的な取組内容

(1) 目的

「みんなで作る PAL PARK」とは、テレビでお馴染み「ダッシュ島」のようなことをまちの中で実施するイメージである。特に施設の裏庭、裏山を利用した体験学習など将来の若者に幸せになる力、役立つ力を届け伝えられることを目的とした。

- ア モノづくりに対する興味・関心
(達成することで自信につなげる)
- イ コミュニケーション
(大人やプロとの会話から学ぶ)
- ウ 普段の居場所
(気軽に集まれるスペースを創出)

(2) アイデア抽出

目的を達成するためのアイデアを中学校生徒会、公民館運営協議会、青少年育成協議会などから抽出し、具体的に三つの事業を実施とした。

ア BBQサイトの制作

イ ピザ窯の制作

ウ 展望台の整備

その他、イベント的なものでなく若者が集まりやすい土日型で毎週実施。



(学習会・ワークショップの様子)

(3) 仲間の募集

チラシを作成し、中学生全員に配布、また、宍道駅前において手渡しで声を掛けながら配布、及び地域への回覧を実施。結果17名の登録となった。



(募集に使ったチラシの一部)

(4) 学習会とワークショップ

参加者でBBQサイト、ピザ窯、展望台の制作整備方法を学習し、その後その場所を使ったアイデア抽出ワークショップも実施。夢あふれるアイデアに盛り上がった。現地視察も実施した。

(5) 制作作業

8月から2月までで20回に渡り作業を実施した。高校生も初めての作業に楽しそうであった。



(BBQサイト制作。初めてのブロック積)

4 評価と成果

(1) 事業から見えてきたもの

ア 若者は身近な遊び場を探求。

イ 毎週、土日型への挑戦！

モチベーション持続のため「お楽しみパーティー」などを入れ、より夢が膨らみ継続出来た。



(かがり火鮎の塩焼き炙り井パーティー)

ウ 個々へのアプローチの大切さ。

エ 新たなグループとの交流の実現。

オ 新たなまちづくり拠点となる。

カ 高校生の参加。(夏休みは可能)

5 今後の課題と見通し

今年度については整備制作体験に重点を置いた活動であった。今後も体験を通じた学習を盛り込み、地域貢献リーダーの育成を推進する。また、地域のアイデアが詰まる「PAL PARK」の完成までには時間が必要であり、継続的に地域版総合戦略として多くのグループと連携、「PAL PARK」を利用したイベントを仕掛け「オール宍道」でチャレンジしていきたいと考えている。

(文責 : 館長 佐藤和彦)